

核融合アーカイブズデータベースの共有化

Construction of electronic finding aids for Fusion Science Archives Database

難波忠清、松岡啓介、寺嶋由之介¹⁾、大林治夫²⁾、藤田順治²⁾、高岩義信³⁾、安倍尚紀⁴⁾、五島敏芳⁵⁾、木村一枝、花岡幸子

核融合研、¹⁾名大(名誉教授)、²⁾核融合研(名誉教授)、³⁾筑波技術大、⁴⁾総研大、⁵⁾国文研

NAMBA, C., MATSUOKA, K., TERASHIMA, Y.¹⁾, OBAYASHI, H.²⁾, FUJITA, J.²⁾, TAKAIWA, Y.³⁾, ABE, N.⁴⁾, GOTOH, H.⁵⁾,
KIMURA, K., HANAOKA, S.

NIFS, ¹⁾Nagoya Univ. (Prof. Em.), ²⁾NIFS(Prof. Em.), ³⁾Tsukuba Univ. of Tech., ⁴⁾Sokendai, ⁵⁾NIJL

1. 調査研究の背景と目的

我が国の大学における核融合研究開発が如何に進められてきたかについて歴史的な資料に基づき明らかにしていくことは、社会と他分野の研究者に対する説明責任を果たすためにも、また今後の研究の進展を図るためにも必要不可欠であり、このような観点から、NIFSに核融合アーカイブ室が設置された。

これらの史料等が広く活用されるためには、収集・整理された史料等がデータベース化され、さらに適切な検索手段が提供されることが必要である。核融合アーカイブ室では、検索手段の標準化およびアーカイブズ資源の共有化を目指した共同研究を総研大、国文研等との間で進めている。これにより核融合関連に留まらず、同様なアーカイブズとの、資源のより広い共有化を実現しようとするものである。今回はこの研究について報告する。

2. アーカイブズの記述と検索手段の標準化

核融合アーカイブ室では、収集・整理された核融合関連の史料等を作業用にデータベースマネージングソフトである FileMaker Pro を導入し、これを用いたデータベース化を進めている。これは、このソフトがパソコンベースであり、操作が容易であること、将来の拡張性ないしは他のデータベースシステムへの移行が容易であると考えられるからであった。現在既に約 15,000 件の史料が上記データベース (NIFS-FSAD と呼称される) に蓄積されている。しかし、「作業用」を超えて、これらの史料等が広く活用されるためには、適切な検索手段が提供され、インターネット等を通じて公開されることが求められる。このような要請に応えるため、検索手段の国際規格として広く採用されている EAD (Encoded Archival Description : 符号化記録史料記述) を適用し web 上で公開することを、総研大、国文研等との共同研究を通じて検討している。

EAD は、アーカイブズの検索手段 (finding aids) を電子的に符号化するための国際標準であり、記録史料を記述するために必要な要素は何かという意味内容を具体的に配列・構成するための規格である。具体的には、記述すべきフィールド (TAG) を定め (必須、任意など) 異なるアーカイブズ毎に統一的な共通の検索手段を提供するものである。従って、EAD の適用にあたってまず問題となるのは、我々がすでに「作業用」に作成している NIFS-FSAD におけるフィールドと EAD が要求するフィールドとの整合性を調べる必要がある。検討の結果、基本的に我々の NIFS-FSAD は、EAD の要求を満たしていること、予想される若干の変更に対しても機械的変換 (ソフトによる一括処理) で対応することが可能であると判断される。さらに、EAD の特徴として、XML (eXtensible Markup Language) によるデータの記述を求めているが、これについても NIFS-FSAD のベースになっている FileMaker Pro のデータから比較的容易に XML への変換が可能と判断される。今後、現在の NIFS-FSAD におけるフィールドと EAD が要求するフィールドとの整合ある対応を取りつつ、XML への変換作業を NIFS-FSAD の少数のデータに対して試行的に実施し、問題点をより具体的に探り出し、その後、本格的な移行作業へ移る予定である。